

紫外線センサーで 素早く火災を検知

物材機構とシステム開発 アンテック

火を発見できる。物材機構が開発したセンサー素子を火災センサーとして使い、アンテックが持つ信号処理・通信技術を組み合わせた。センサーの感度向上を図り、実用化を目指す。

新タイプの紫外線検知方式による火災センサーを使い、煙や熱検知よりも早く出火を発見する。

センサー部と警報部で構成し、センサー部は9ℓの乾電池1本で長期間駆動する。センサー素子は直径9ミリ、高さ5ミリと小型で、衝撃にも強い。一般家庭への普及を視野に入れ、センサー部で検出した火災情報を赤外線通信で迅速に警報部に送り、警報音や警報ランプを発するシステム構成とした。

火災センサーでは真空管式の光電管が実用化されているが、駆動に300ℓの高電圧が必要だったり、サイズが大きく衝撃にも弱かった。

物質・材料研究所機構
物質研究所スーパーダイ
ヤグループの小出康夫主
席研究員らのグループと
アンテック（岡山県瀬戸
内市、末石建二社長、0
869・22・215
5）は14日、ダイヤモンド紫外線センサーを用いた火災検知システムを開発したと発表した。炎の主成分である紫外線を検知し、煙や熱で感知する
前の初期段階に素早く出